



青山神明遺跡

発掘だより 8号

令和 7 年 6 月 16 日



青山神明遺跡調査区位置図

■：防災安全局・道路整備課 ■：河川整備課
■：令和 5・6 年度調査箇所

◆令和7年度の発掘調査が始まりました。

こんにちは。愛知県埋蔵文化財センターです。センターでは、愛知県基幹的広域防災拠点等整備事業などに伴い、令和 5 年度より青山神明遺跡の発掘調査を行ってきました。

青山神明遺跡は、愛知県西春日井郡豊山町大字青山字神明・金剛地内にて確認された遺跡です。『豊山町史』によれば、大字青山には旧字稲荷畑地内で銅鏡、旧字北畑地内で縄文土器・石器、旧字居屋敷で土器・石器類が確認されています。

本年度の発掘調査は、神明公園の 25A 区～25R 区の 18 ヶ所（上図のピンク色部分）の調査区に分けて、合計 18,393 m²の面積を 5 班の体制で実施します。今回の発掘だよりでは、昨年度の 12 月から 3 月にかけて調査を実施した、青山神明遺跡 24Fb 区と多気中町東遺跡（小牧市多気中町）の調査の成果（上図の赤色で囲んだ灰色部分）の主だった調査成果について紹介します。



25R 区作業風景（南東より）



◆^{あおやましんめい い せき}青山神明遺跡 24Fb 区の調査成果（地図の A 地点）

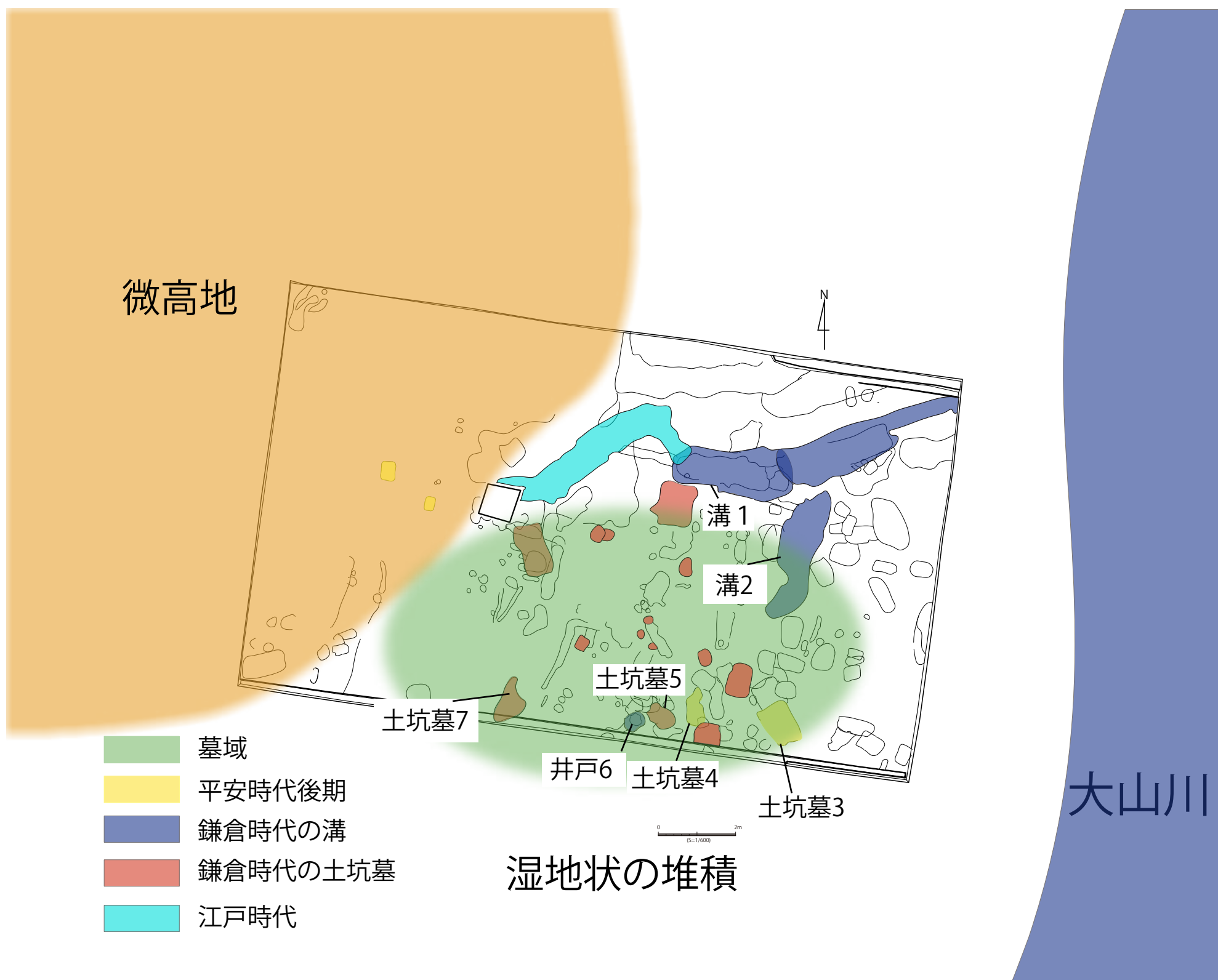
青山神明遺跡 24Fb 区は南東側に神明公園・東側に大山川があります。令和 7 年 1 月から 2 月まで調査を実施しました。調査の結果、^{みぞ}溝 4 条と^{へいあん じ だいこう き}平安時代後期から^{かまくら じ だい}鎌倉時代にかけての墓（^{ど こう ぼ}土坑墓）が見つかりました。

溝は溝 1 が鎌倉時代で深さが 1.3m あり、元々河道の部分を掘削し溝にした可能性があります。流路・溝は、南西から北東の方向に向かって流れています。

土坑墓は調査区の南側から 10 基以上発見されています。不定形な形や長方形の形をしており、大きさは、長辺が 3 ～ 5m です。礫が多く含まれている土坑墓も見つかりました。遺物は平安時代後期（約 1000 年前）の^{かいゆうぢゃわん}灰釉茶碗や鎌倉時代（約 800 年前）の^{やまぢゃわん}山茶碗が見つかります。これらの遺物は^{ふくそうひん}副葬品の可能性があります。この土坑墓群の埋葬者は^{まいそうしゃ}青山神明遺跡周辺の当時の有力者の可能性があります。

24Fb 区の大部分はその西側に比べて地形が下がっており、主に自然流路または湿地状の黒色土の堆積があります。

以上のことから、平安時代後期から鎌倉時代にかけて大山川と集落に挟まれた地形が下がっているところでは、土坑墓が展開していることが明らかになりました。





溝 1 完掘状況



溝 3 から出土した木材



土坑墓 4 木材出土状況



土坑墓 5 遺物出土状況



土坑墓 5 遺物出土状況



土坑 7 遺物出土状況



土坑 7 完掘状況



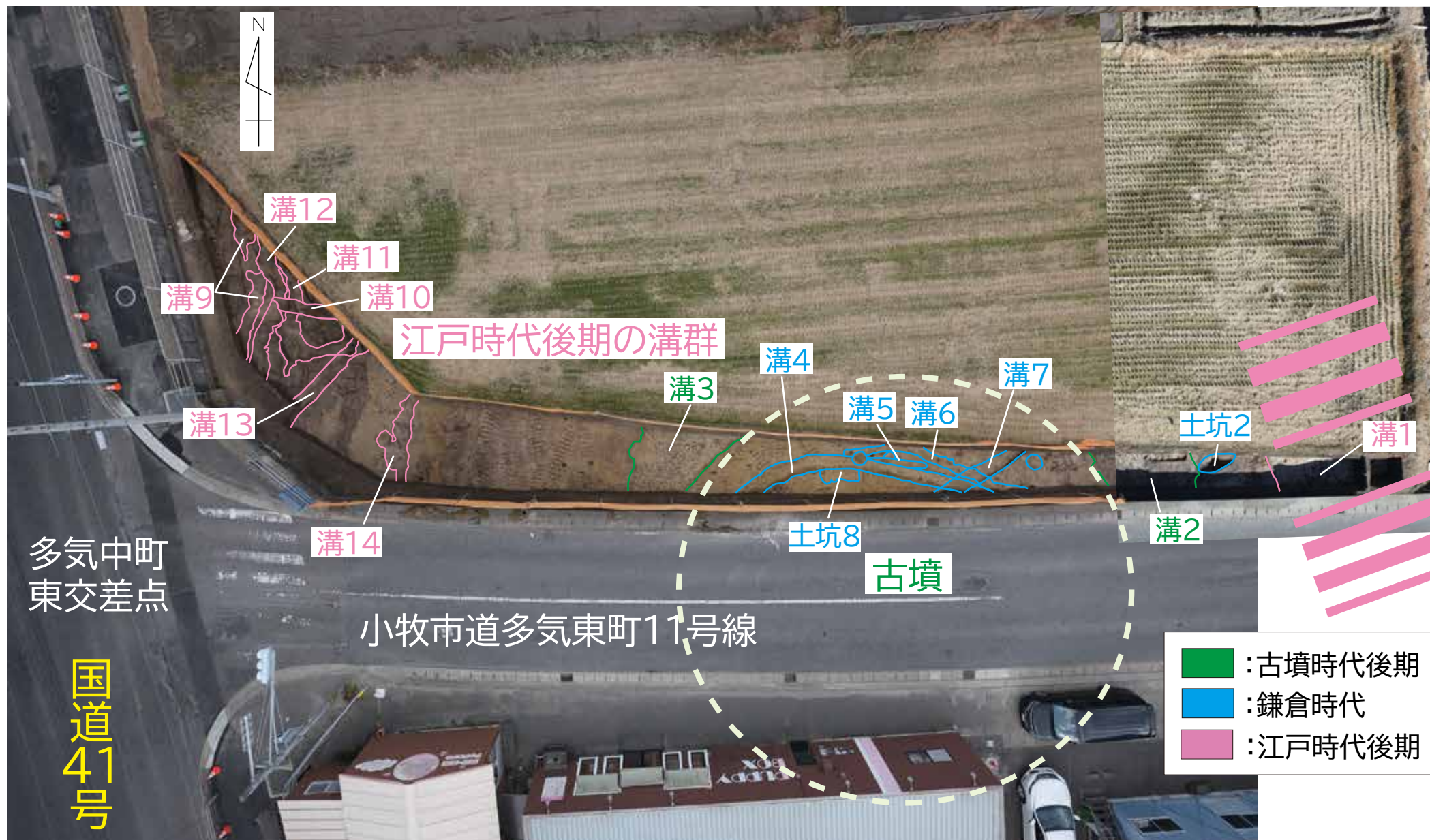
土坑墓 8 礫出土状況



◆多気中町東遺跡（地図のB地点）

多気中町東遺跡は青山神明遺跡から中江川を挟んだ北西にあります。令和6年12月に調査を実施しました。その結果、古墳時代後期（約1,500年前）の溝2条、鎌倉時代（約800年前）の溝4条、土坑2基、江戸時代後期（約200年前）の溝6条などが見つかりました。このうち調査区中央で確認された古墳時代後期の溝2と溝3は、幅3.5m、深さ0.1m程の弧状に巡る溝で、調査区外南側にかけて広がる円形の古墳の周溝である可能性が高いものです。溝3からは須恵器の壺、甕、杯などとともに円筒埴輪が出土しました。

また調査区の南側と北側に、江戸時代後期から近代にかけての南北方向の溝1・溝9・溝11～溝14、東西方向の溝10がありました。耕作にともなう水路跡と思われます。



多気中町東遺跡全景（南上空より、西側と東側の空中写真を合成）



溝3の円筒埴輪出土状況（北西より）



溝3の礫出土状況（西より）



鎌倉時代の溝4～溝7・土坑8（東より）

◆まとめ

今年度の調査におきましても、古墳時代から江戸時代にかけての遺構と遺物の発見が期待されます。今後も発掘した調査成果を随時報告していきます。

また、近隣の住民の皆様には発掘調査に際してご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。